大山町立小見小学校

あばれ川に学び、成長する。

大山町立 小見小学校

学 校 長：	福田　節子先生
指導教諭：	境　裕子先生
	佐伯由喜子先生
	萩本　信吾先生
発表児童：	4～6年生（13名）

本校は富山県南東部に位置する大山町の常願寺川上流の山間部にあります。薬師岳、鍬崎山、有峰湖などの豊かな自然に囲まれ、校区にはらいちょうバレーなどのスキー場があります。グラウンドには20m級のジャンプ台が設置され、スキー学習が盛んです。長野の白馬北小学校とのスキー交歓会は今年で30年目を迎えます。児童数は現在28名ですが、家庭的な雰囲気の中で、少人数を生かしたきめの細かい豊かな学習活動を展開しています。

■ 発表テーマ ■

アイらぶ小見
～あばれ常願寺川のなぞに挑む～

あばれ川（常願寺川）と呼ばれた歴史や、それに挑む人々の取り組みについて調べる。
大転石、常願寺川の歴史・被害（アンケートより）、土石流・砂防堰堤（自作の実験装置など）、自然環境との調和（川と魚・魚道）などについて発表。

境・佐伯・萩本先生より

みんなで力を合わせて取り組んだ「あばれ常願寺川のなぞにいどむ」

小見小学校では、3～6年が縦割りチームを組み、総合的な学習に取り組んでいます。テーマは「アイらぶ小見」。「自分の課題をしっかりもち、多くの人や物とかかわり、小見を見つめ、小見や自分を大好きになろう」を目標にしています。昨年度は「あばれ常願寺川のなぞにいどむ」と題し、学校の前を流れる見慣れた常願寺川には様々なドラマがあることを知りました。地元に大きな被害をもたらし、現在も崩れ続ける立山カルデラと砂防ダムの役割の大きさ。そして、砂防に関わる人々の苦労。自分たちの目で確かめ、歩いて調査したことは、子供たちにとって確かな学びとなりました。また、大勢の前で発表できたことも貴重な体験だったと思います。

▲4年生～6年生までみんなで参加。

▲学校の裏が「あばれ川」

▲一人一人の発表が輝いてたね。

▲今後も、アイらぶ小見を深めようね。

▲元気良く、力強く。

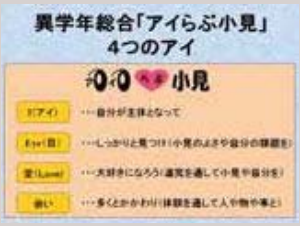
考えたこと・感じたこと

小見に住む僕たち私たちにとって、身近で大事な問題に取り組みました。

僕たち、私たちは、3～6年生でチームをつくり「小見や自分を大好きになろう。」と常願寺川のなぞに挑戦しました。
立山カルデラと常願寺川の関係や歴史を学び、実際に模型をつくって土石流のこわさと砂防ダムの役割や大切さも体験しました。
また、実際現地見学に行き、砂防ダムにかかわる人々に取材をして本当に苦労されていることに感動しました。
4つのテーマで各チームが頑張り、自分たちの住む小見がもっと好きになり常願寺川に対する愛着もわきました。

学習テーマの設定

あばれ常願寺川のなぞに挑む。
4年生～6年生がひとつになり、常願寺川の災害の歴史、砂防事業について調査、研究をしました。学校の近くにも本宮砂防ダムがあり、自分たちでダムの役割を知ることで、より親しみがわきましたね。



異学年総合「アイらぶ小見」。
アイには4つの意味があります。I（アイ）…自分が主体となって。Eye（目）…しっかりと見つける。愛（Love）…大好きになろう。会い…多くとかかわる。すばらしいアイでした。

学習の展開

4つのチームで調査、研究。
常願寺川のなぞに挑むため、4つの視点で観察、調査を行いました。ユニークなチーム名がみんなのやる気を感じさせました。それぞれのチームが学習したことをフェスティバルで発表したね。

土石流のすごさを実感。
時速40キロ以上のスピードで流れる土石流。
直径6.56メートル、400トンもする、大きなこの岩も山から流れてきたことにみんなびっくりしたね。

立山カルデラの歴史。
10万年前立山火山の激しい活動により、崩れて生まれた立山カルデラ。今もなお山が崩れています。

立山カルデラ現地見学。
土砂災害を防ぐために、山の中で沢山の人が働いているのにビックリ。
監視カメラなどもあり、24時間見守っているんだね。

砂防ダムの実験で実感。
みんなで砂防ダムのミニモデルをつくり、ダムのある場合と無い場合の土砂の流れを観察。無い場合、下流の街が大変なことになったね。